

令和6年3月

世田谷区立芦花中学校
校長 井尻 郁夫

次年度に向けた改善方策
～令和5年度の関係者評価分析結果の報告を受けて～

令和6年度については、コロナ禍における制限が解除され令和元年度以来の教育活動が展開された令和5年度の成果を踏まえ、この流れ、勢いを維持、継続していくこと重視する。中でも、学力面では、研究の視点である3つの視点と家庭学習の取組の日常化、新たな伝統、校風を生み出すための学校行事の活性化、キャリア教育の推進、そして、地域、家庭及び小学校との連携強化をキーワードに、創意工夫のある教育活動を展開する。

1 重点項目について

学習指導要領に基づき、世田谷区「キャリア・未来デザイン教育」の趣旨を踏まえ、学校の教育目標の実現に向けて、地域社会等との連携も含めた様々な教育活動を展開したり、カリキュラム・マネジメントを踏まえた各教科等の指導計画を工夫したりすることなどを通じて、令和6年度も引き続き、生徒一人一人に、重点的に育みたい資質・能力として、「問題発見・問題解決する力（主体性）、人間関係を形成する力（コミュニケーション能力）、豊かな人間性、体力（実践力）」とする。

そのため、主体的・対話的で深い学び及び「せたがや探究的な学び」の視点からの授業改善、令和3～5年度東京都教育委員会研究指定事業「授業改善推進拠点校」における成果として学習過程を重視した授業展開、タブレット端末等ICTの積極的な活用、学びを支える人材を活用した補習等を通じた個に応じた指導の充実、社会体験活動、ボランティア活動の活性化、生徒の自主的・自治的活動及び協働を大切にした体験的活動等の教育活動の充実を図る。また、学習習得確認調査の結果分析を通じた学習指導及び交流を通じた学びの深化、発展等学び舎内の小学校との連携を推進する。

学校行事については、学校関係者評価における高評価を踏まえつつ、それぞれのねらい・育成すべき資質・能力を明確にした上で、本校の伝統と特色を生かした学校行事を企画・立案する。特に、学級、学年、学校全体による行事づくりへの取組を通して、自己肯定感や自己有用感を育むとともに、自他を尊重し認め合いながら、よりよい人間関係の構築を図る。また、キャリア教育をはじめとする様々な取組において、外部の専門家の指導が受けられるよう工夫し、生徒の意欲をさらに高め、成就感、達成感が得られる取り組みを一層充実したものにする。

2 学習指導について

生徒は授業に対して、素直に前向きに授業に取り組んでいる状況にある。知識獲得のための学習に加えて、考える場面の設定、板書やプリントの工夫、発表や話し

合いの機会の設定、タブレット端末の活用等、授業に対する肯定的な回答（生徒）が多い。今後は、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、探究的な学びの実現に向けて、「問い合わせ（課題）と振り返り」「見方・考え方」「個に応じた指導」による学習過程を大事にし、学習課題の設定とそれに対応した学習のまとめ、各教科の特性を踏まえ学習（見方・考え方の働きかせる）、生徒の個々の学習状況に応じた「個別最適な学び」及び探究的な学習や体験活動を通した「協働的な学び」の充実により学びの質をより一層高めていく。

3 生活指導等について

生徒は全体的に落ち着いて生活しており、概ね学校生活に適応できている状況にある中、引き続き、一人一人の生徒理解に努め、信頼関係を基盤とする教育相談的手法を基本に指導する。中でも、生徒、保護者にとって、「相談しやすい、安心して相談できる」関係の構築を推進していく。

また、学校生活は社会生活であるとの認識に立ち、集団の一員として主体的に正しく判断することのできるよう、学校のきまり等について、生徒に考えさせる機会をつくりしていくとともに、生徒による学校生活の改善・充実に取り組めるよう、自主性、自治的能力の育成に取り組んでいく。さらに、いじめ防止基本方針に基づいて生徒が安心して学校生活が送れるよう指導の充実を図るとともに、不登校対応や特別支援教育等、様々な配慮を必要とする生徒に必要な支援をするため、一人一人に寄り添う指導体制を整備し、関係諸機関との連携を図るなど教育相談を計画的・組織的に展開できるように工夫する。加えて、セーフティ教室、避難訓練、合同防災、避難所運営訓練、防犯対策、交通安全指導等により、生徒の防災意識や安全対応能力を一層高める。

4 部活動について

生徒一人一人の趣向に基づく活動であり、技能面だけでなく、人間形成の場として貴重な教育の機会となっており、生徒の期待も大きい教育活動である。本校の学校規模に対して、多くの部活動を設置しているが、引き続き生徒が求める多種多様の部活動を開設できるように、全教職員が部活動にかかわり、予算内での外部指導員の導入を充実させるとともに、部活動ガイドライン等に基づき適正な部活動を実施しながらの活性化を図っていく。

5 学校全般について

生徒・保護者ともに、学校生活は楽しいという回答が多くあり、これまでの教育活動を継続しつつ、工夫・改善を図っていく。中でも、生徒の自主性、主体性を伸ばし、人間としての「在り方や生き方」の探索や実現を支援し、重点的に育みたい資質・能力の育成を図っていく。

コロナ禍以前より盛んであった地地域行事への参加等も含めた地域との連携、小学生との交流等小学校と連携した取組、保護者への教育活動の積極的な公開を推進する。ＩＣＴの活用やホームページ等による発信を引き続き充実させるとともに、コロナ以前の教育活動を復活したり再構築して実施したりするなどしていく。